

給食だより 令和5年度 4号

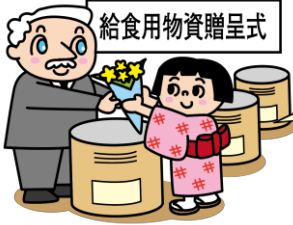
焼津市学校給食センター

1/24~1/30 全国学校給食週間 給食の歴史&献立の変遷



学校給食の起源は、明治22（1889）年にさかのぼります。山形県の大督寺というお寺の中にあつた小学校で、お弁当を持ってこれない子どもたちに、昼食を無償で提供したことが始まりとされています。その後、全国へと広がりましたが、戦争による食料不足などの影響で中断されてしまいました。

戦争が終わっても食料不足は続き、子どもたちの栄養状態が心配されたことから、学校給食の再開を求める声が高まりました。アメリカのLARA（アジア救援公認団体）から送られた物資を使い、昭和22（1947）年1月に給食が再開されました。



給食用物資贈呈式

★昭和21（1946）年12月24日に物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、冬休みと重なるため、昭和25（1950）年度からは1月24日～30日を「全国学校給食週間」とすることが定められました。
★昭和29（1954）年に「学校給食法」が成立し、学校給食の実施体制が法的に整い、教育活動として位置づけられるようになりました。

時代の流れと共に変化を続ける「学校給食」ですが、いつの時代も子どもたちを大切に思う気持ちが詰まっています。そんな思いを感じてお楽しみください。

焼津市ではこの期間中、地場産物をたくさん使った献立を提供します。お楽しみに！！

昭和 22 年ごろの給食

脱脂粉乳や缶詰などの物資を使って給食が作られました。

トマトシチュー・ミルク

昭和 25 年ごろの給食

アメリカから寄贈された小麦粉を使ったパン・ミルク・おかずの完全給食が始まりました。

コッペパン・ミルク・カレーシチュー

昭和 40 年代ごろの給食

パンの種類が増え、種類も提供されるようになりました。脱脂粉乳のミルクは牛乳へと切り替わりました。

ミートスパゲッティ・牛乳・フレンチサラダ・プリン

昭和 50 年代ごろの給食

給食の主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯が正式に導入され、献立の内容も豊かになってきました。

カレーライス・牛乳・塩もみ・バナナ

食育の取り組みを紹介します



和田中学校 1年生 学級活動「成長期に必要な朝食について考えよう」

朝食が一日の活動に不可欠な食事であり、成長期に必要な食事ということを理解し、今後の生活に活かそうとする意欲を持つことを目標として授業を行いました。



朝食をとると、午前中の体温が下がりにくいんだね。



〈授業後の生徒の意見〉

- ・いつもおかずを食べていないから食べていきたいと思いました。
- ・朝食を食べて一日をスタートしたい。
- ・バランスよく食べるために、いつも家にあるようなもので工夫できるようにしたい。
- ・これからは自分の体にいい食事をしたいと思う。
- ・たとえご飯が作られていなくても、身の回りのもので食事をとる。

朝食摂取の有無と、体温との関係を示したグラフをグループで読み取り、朝食摂取の効果について話し合いました。

意欲的な意見をもつ生徒が多かったです。忙しい朝ですが、ご家庭でもご協力をお願いします。

